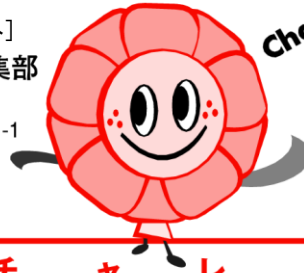




平成 23 年 8 月 8 日 [号外]  
 民主党プレス民主編集部  
 〒100-0014  
 東京都千代田区永田町1-11-1  
 Tel.03-3595-9988 (代表)  
 e-mail press@dpj.or.jp  
 http://www.dpj.or.jp



Challenge!!

民主党山形県第3区総支部代表  
 衆議院議員 **和嶋 未希**  
 プレス民主 [号外] 山形県第3区版  
 〒998-0011 山形県酒田市上安町1-1-22 1階  
 Tel.0234-35-8285 Fax.0234-27-3080



未 来 希 望、チ ャ レ ン ジ !

わじまみき奮闘記

2011.07.31

## 子どもふっこう会議@石巻

7月31日、石巻市に行ってきました。今回の目的は「子どもふっこう会議」の開催です。

被災地では復旧・復興に向けての動きが進んでいますが、被災された方々、大人だけでなく子どもたちも学校生活や日常生活のいたるところで変化や不便を受けながら生活しています。子どもたちも復興の当事者であり、そうした子どもたちの想いや意見を今後の計画や予算にきちんと反映していこうという目的で開催したのが「子どもふっこう会議」です。衆議院一期の女性議員が中心になり、岩手・宮城・福島それぞれの被災地に入り、子どもたちや学生、保護者の皆さんと意見交換を行いました。

当日は私を含めて女性議員4人が石巻市に入りました。訪れたのは市内にある「ほっとスペース石巻」。雑居ビルの2階にあるこの施設は、震災後発足した被災者をNPOとつないで支えるプロジェクト・通称「つなプロ」が運営している子どもたちの居場所です。スタッフが2人常駐し(大学休学を決断してスタッフとして奮闘している学生さんも!)、平日は月曜日を除き午前10時から午後5時まで、週末も午後1時から午後8時まで無料で利用できます。勉強したり、絵を描いたり、スタッフのお姉さんお兄さんに学校生活や家でのことを話したり、中学生・高校生20人ほどが利用しています。

参加してくれたのは中学3年生男女3名。私たちやスタッフの皆さんも含めて自己紹介をした後、意見交換が始まりました。「体育館は避難所になり、いつも遊んでいた公園には仮設住宅が建っていて、運動する場所や友達と交流する場所がほしい」「学校の授業の進捗が遅れていて受験勉強が追いつかない」「余震が怖い」「学校給食をはやくもとに戻してほしい(まだ簡易給食のまま)」「部活動の器具が壊れてしまった」「アトピー治療に通っていた病院がなくなってしまって困っている」等々、参加してくれた子どもたちはいろんな想いを正直に、自分の言葉で話してくれました。

「議員ってどんな仕事をしているの?」「なぜ議員にな

ったの?」という鋭い質問も出て、今日聞いたような意見を法律や予算、政策に反映していく仕事であるということ、そしてそれぞれが政治家をめざしたきっかけを話し、今回の意見交換の趣旨も理解してもらえたようでした。

今後のまちづくりや将来の夢も話し合い、最後に全員が画用紙を使って絵やメッセージを書いて、一人ずつ発表して記念撮影。最後にはすっかり打ち解けて意見交換を終了しました。

子どもたちとの意見交換のなかで、私もさまざまなことを感じました。「ほっとスペース」が行っているような居場所づくりが必要とされ、実際に被災地の子どもたちの大きな心の支えになっていること。一方で、長期的に継続していくためには、今後、自治体との連携や地域人材の活用も視野に入れていかなければならないのではないかと。また、子どもたちが日々の学校生活や日常生活のなかで変化や不便を受けいけながらも、少しずつ積み重ねているストレス。予防的心のケアの必要性など…。



「子どもふっこう会議」の全体報告会は来週に行われる予定で、その報告を踏まえて全体の提言をまとめて政府・党に提出の予定です。子どもたちの声をしっかり政策に反映させていくために、引き続き活動を続けていきます。

衆議院議員 **和嶋 未希**